

## 土山茶の新ブランド「土山一晚ほうじ」の育成支援

対象者 土山町茶業協会

### 【普及活動のねらい】

甲賀市土山町は、「近江の茶」の7割以上を占める県下最大の茶産地ですが、全国的に見ると生産量は少なく、「土山茶」としての知名度は低い状況にあります。また、令和2年以降、コロナ禍によるインバウンド需要の低迷等により、荒茶価格が著しく低下し、さらに燃料費や資材費の高騰も相まって、茶業経営の厳しさは深刻です。

そこで、土山茶のブランド力強化を図るため、他産地にはない新たな発想のもと、新しいブランド茶を作り上げることを目標として、土山町茶業協会（以下「協会」）や関係機関と連携して、新ブランド「土山一晚ほうじ」の育成を支援しました。

### 【普及活動の内容】

#### 「土山一晚ほうじ」のコンセプトと原料茶生産体制の確立

茶業会議所ブランディング部会（以下「部会」）において、他産地にはない新たなほうじ茶を核とした新ブランド商品の開発について、協会や関係機関で何度も話し合いや試作、試飲等を繰り返し、新ブランドのコンセプトを決定しました。その後本格的な生産に向けて原料茶生産希望農家を募集しました。当課は主に原料茶の製造法に関する相談や、求評会開催にむけてのサンプル収集などを支援しました。

#### 「土山一晚ほうじ」の効果的なPR実施の支援

部会で話し合いを重ね、ホームページの作成、クラウドファンディングや商品発表会の開催、各地でのPR活動、PRグッズの作成等が行われました。当課は、主に県広報担当者との連携、ホームページ内のほうじ茶物知りコーナー作成等の支援を行いました。

### 【普及活動の成果】

これらの活動の結果、コンセプトは「協会員が栽培し、12時間以上萎凋させた香り高い茶葉を、滋賀県茶商業協同組合員等が焙煎したもの」と決定され、初年度は8名の生産者が原料茶づくりに取り組むことになりました。販売業者13件とのコラボで様々なバリエーションの商品ができました。

当課は、原料茶づくりにあたって、萎凋茶の製造に不慣れな農家を中心に相談を受け、十分な萎凋香が出るまで萎凋を続けるなど指導したことから、安定した品質の原料茶を生産することが出来ました。

今後も求評会の開催などを通じて「土山一晚ほうじ」のブランド確立を支援していく予定です。



「土山一晚ほうじ」の商品バリエーション



商品発表会の様子